

平成 29 年度大学院教育学院修士課程入学試験問題

日本語

(100点満点)

問題 1 と問題 2 のすべてに解答すること。

問題 1 別紙「問題 1 の問題文」を読んで、次のすべての間に解答しなさい。

問 1 傍線①「たいていの議論は議論だおれ」になるという日本語の意味を簡潔に説明しなさい。その上で、「議論だおれ」になった結果、どのようなことが起きると著者は述べているか。説明しなさい。

問 2 ②に入る語句として、もっとも適切なものを次のアからオの中から一つ選び、それを選んだ理由を説明しなさい。

ア. 絶対 イ. 相対 ウ. 他者 エ. 自己 オ. 客観

問 3 傍線③について、評価のしかたと学習意欲のあり方がどのように結びついていると著者は述べているか。説明しなさい。

問題 2 別紙「問題 2 の問題文」を読んで、次のすべての間に解答しなさい。

問 1 傍線①「ケア」という言葉のカプセルを外した時」とは、「ケア」という言葉をどのようにすることを指しているか、150 字以内で説明しなさい。

問 2 本文では「顕在的ケア」について、傍線②「人間関係の土台には常に潜在的ケアが働いており、ある場面において、それが顕在的な営みとして浮き彫りになる」ケアと説明している。このような意味で「顕在的ケア」が「浮き彫りになる」場面にはどのようなものがあるか。自分の経験など本文以外の具体例を挙げながら説明しなさい。

問題1の問題文

板倉聖堂『教育評価論』（仮説社、二〇〇三）より。一部改変

西平直「序章 ケアと云わないケアの思想—ケア論が私たちに突きつけた問い—」
『ケアと人間 心理・教育・宗教』ミネルヴァ書房、2018年 より一部改編